

KINDAI KENCHIKU

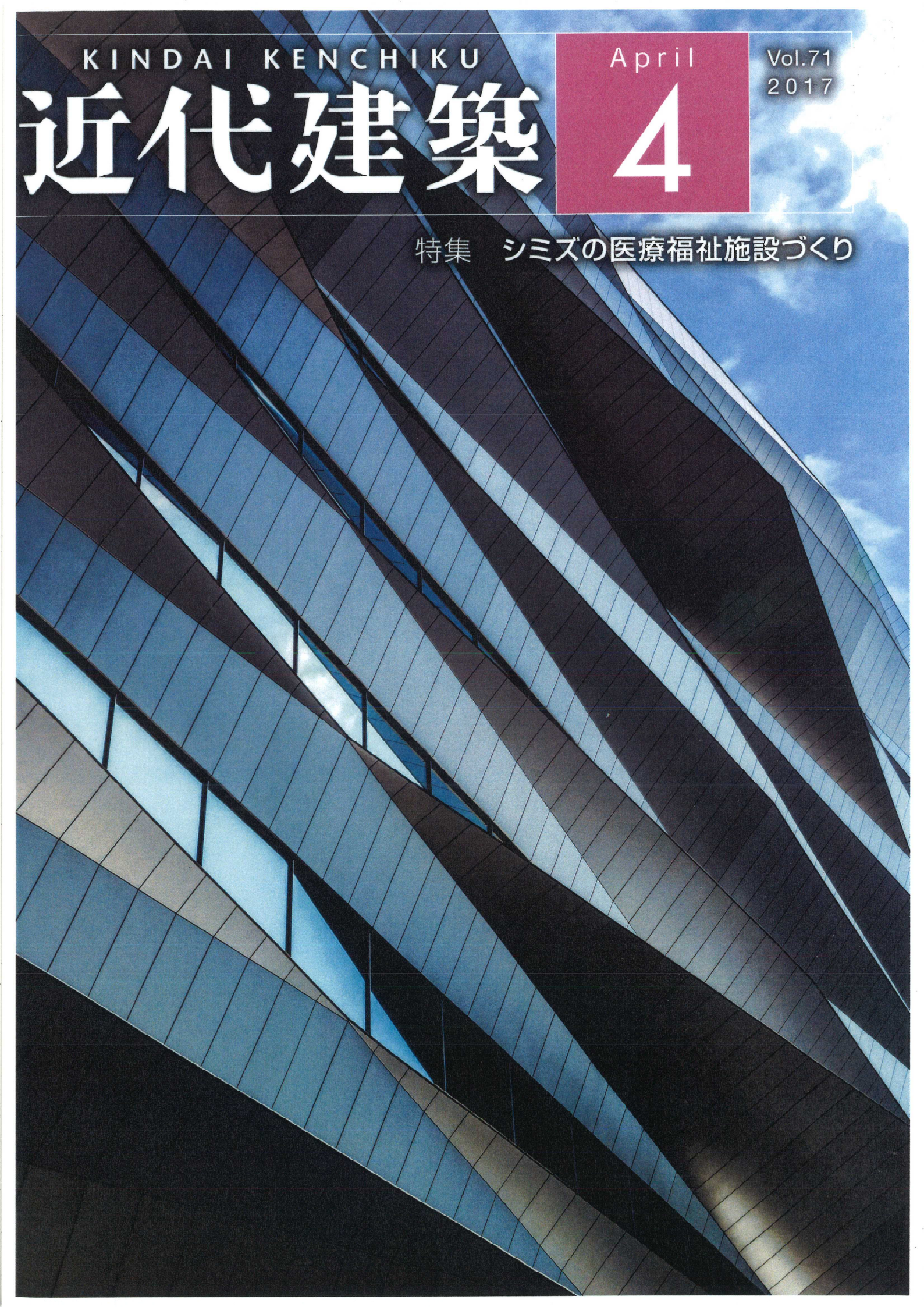
April

Vol.71
2017

近代建築

4

特集 シミズの医療福祉施設づくり



ワンランク上の安全性・省エネ性・効率性を実現

医療法人社団 武蔵野会 TMGあさか医療センター



明るく見とおしの良いエントランスホール



ウェイファインディングに配慮したホスピタルコリドー



自然を感じられる緩和ケアデイルーム

VOICE

村田 順

医療法人社団 武蔵野会 朝霞台中央総合病院 院長
戸田中央医科グループ (TMG) 常任理事
会長 / 中村隆俊
副会長 / 中村 毅、横川秀男

開院から40年を迎える朝霞台中央総合病院は2018年1月の移転新築を機に「TMGあさか医療センター(446床)」として新たなスタートを切ります。新病院ではTMG理念でもある「愛し愛される病院」「患者様を自分の家族と思う医療」の実現に向け、特に近隣4市(朝霞市、志木市、新座市、和光市)の住民の方々の健康を守る大型急性期病院として地元で気兼ねなく高度先進医療を受けることができる体制を整備し、救急患者も24時間365日積極的に受け入れることで年間救急車受入件数として5,000件以上を目指しております。約8,000坪の敷地面積に対して将来の建て

替えを考慮し病院の建物を東側に寄せ、270台分の患者様用駐車場を確保しています。また、施設面では今後到来する人口減少や超高齢化社会による国の医療施策の変化にも対応できるよう1床当たり8㎡の床面積を確保しており、更に清水建設の技術力により病室の廊下側に柱や設備配管スペース、手洗いスペースを設置しないことで、将来、病棟レイアウト変更せざるを得ない状況になった際にも容易に対応できる設計としました。病院が地域住民の生命と生活を守るのは平時だけではなくありません。病院には寝たきりや自立歩行が難しい患者さんも多くいます。万一の火災の際にも患者さんを安全に避難誘導することができるようスタッフが結集しやすい1フロアに4看護単位を設置するプランや煙や炎の遮断システムの提案もいただきました。また、200年に一度の集中豪雨による河川の氾濫に備え盛土した上に病院を建築

震被害に対して強い構造となっていることから、数百人規模の周辺住民を受け入れることができる一時避難所としての機能も備えています。私たちは病で苦しまれて来院される患者さんをサービス産業的な「お客様」とは考えていません。もしその患者さんが自分の家族、親戚だとしたらどうするか、何ができるだろうか。一刻も早く治療を行うのではないのでしょうか。検査が必要な患者さんに何週間も予約で待たせ、検査した時には「手遅れでした」というようなことは自分の家族、身内であれば出来ないはず。そういった医療に取り組む姿勢を常に真摯に心がけ、日々進行していく自然現象でもある病気の早期発見、早期治療をこれからも実践していく所存です。「One for all, All for one (一人はみんなのために、みんなは一人のために)」私たち病院職員の合言葉です。

計画概要

本計画は、昭和52年の開設以来、埼玉県南西部の2次救急、高度専門医療の機能を担ってきた医療法人社団武蔵野会朝霞台中央総合病院の老朽化に伴い、緑が多く残る大学キャンパス跡地に446床の病院を移転新築する計画である。戸田中央医科グループ(TMG)の「愛し愛される病院」の理念のもと、「地域に根差し、地域を元気づけ、地域を永く支える病院」を目指した。

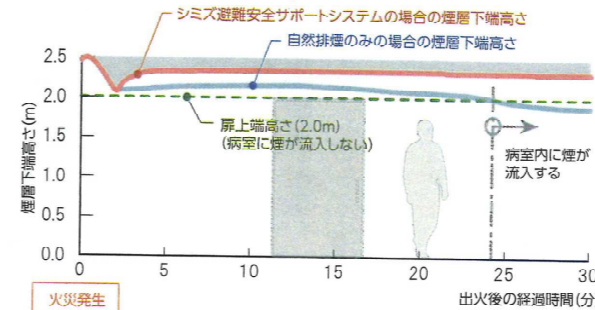
また、エネルギーの最適化、最小化を図りつつ効率的な動線計画を採用することで機能性を高め、火災等の災害にも強い、地域を永く支える病院づくりを行った。

火災時に寝たきりの患者も救える病棟
病棟階は、救助スタッフが集結しやすく、安全区画へのベッド搬送による水平避難が容易になるよう1フロア4看護のプランを採用。出火区画の自然排煙窓を連動開放し、避難した安全区画に加圧給気を行うことで、安全

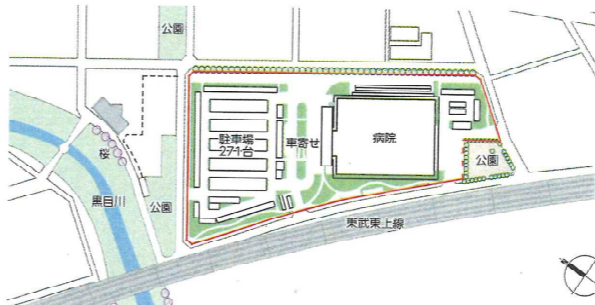
区画への煙の侵入と煙層の降下時間を遅らせて患者の避難をサポートする「シミズ避難安全サポートシステム」を導入した。

(榎並和人、端野亮一)

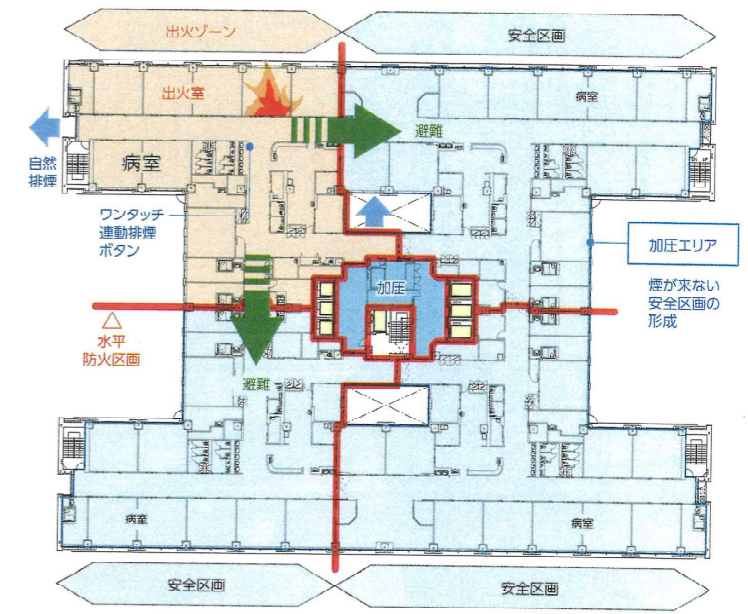
所在地/埼玉県朝霞市 竣工/2017年8月
設計施工/清水建設
敷地面積/23,434.56㎡ 建築面積/4,971.55㎡
延床面積/25,539.238㎡ 構造規模/S造 地上7階
病床数/開院時446床(建物対応病床数458床)



加圧給気により、煙の降下を抑制



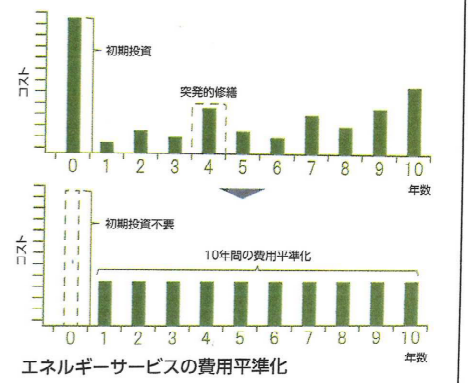
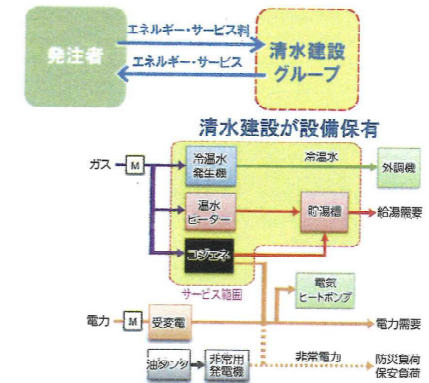
配置図



病棟階平面図 火災時の出火ゾーンと安全区画

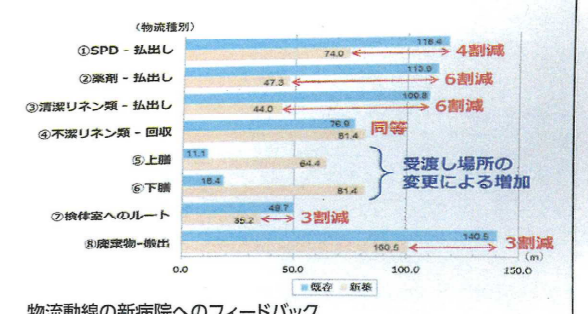
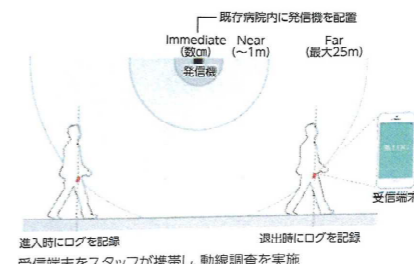
シミズエネルギーサービス事業：エネルギーサービスを行い初期投資分を10年で回収

初期投資の抑制、設備メンテナンスや突発的な機器故障等のリスクを軽減させるため、コジェネや冷温水発生機などのエネルギー設備をシミズが所有し、エネルギーのサービスを行う計画を採用。定期的なメンテナンス費用や設備機器のトラブル対応などの突発的な修繕費用をなくし、毎月定額のエネルギーサービス料での契約となるとともに、エネルギーの無駄遣いがないように省エネ運転支援も行うため、コスト管理がしやすく、省エネとBCP性能の向上が図れる計画とした。



院内物流の効率化をサポート：新病院の動線を概ね50%低減

ICT技術(ビーコン調査)を活用し、既存の物流動線やスタッフの動線追跡調査を実施。既存病院での運用面での特徴を把握し、既存病院調査から見出した物流運用ルールを新病院の動線の短縮化や運用面での課題等の抽出し、運用効率の改善に寄与した。



物流動線の新病院へのフィードバック

民間病院連携による「エイジング・プレイス」の実現

— 地域密着型病院の新しい形を目指して —

医療法人社団 武蔵野会 TMG宗岡中央病院



メインエントランス外観

エイジング・イン・プレイス

住み慣れた地域で自分らしく歳を重ねていく社会「エイジング・イン・プレイス」の理念の実現を目指して、戸田中央医科グループ（以下、TMG）は宗岡の地に新病院を開業した。TMG宗岡中央病院を中心とした半径5km圏域には、朝霞台中央総合病院や新座志木中央総合病院（いずれもTMGが運営）をはじめとした複数の民間医療機関や、訪問看護ステーション、介護施設などが数多く立地している。このスケールメリットを活用し、100床規模の病院単体だけではなし得ない、広域ネットワーク型の新しい「エイジング・イン・プレイス」の形をTMG宗岡中央病院は実現している。前身である志木市民病院の運営を、市より移譲され開設した新病院には、一般病棟から一部転換した回復期リハビリテーション病棟や、リハビリスペース、健診専用エリア、透析ベッド、さらには訪問看護

ステーションなど、地域の医療ニーズに応える機能を多様に盛り込んでいる。

旧市民病院から生まれ変わった新病院

地域医療の中心であり、かつ広域ネットワークの窓口となる新病院には、多様な機能とともに、地域住民との新たな絆をつくることが求められた。まず、老朽化した旧病院からのイメージ刷新を図るため、植栽の緑と一体的に映える白基調の淡い縦ストライプの外観とし「新しさ」を表現した。一方内部空間にはアースカラーの素材や葉草をモチーフとしたサインアートなどを配することで、地域住民に「親しみ」や「温かみ」が感じてもらえるデザインとした。また構造架構には、鉄筋コンクリートの柱と鉄骨梁とを組み合わせたハイブリッド構造であるRCSS造を病院建築として初めて採用した。

RCSS造により大きな柱スパンを確保し、プランニングの自由度や将来改修のフレキシビ

リティを飛躍的に向上させることで、長期にわたって医療ニーズに応えられる新病院づくりに取り組んだ。

病棟一体型のリハビリテーション

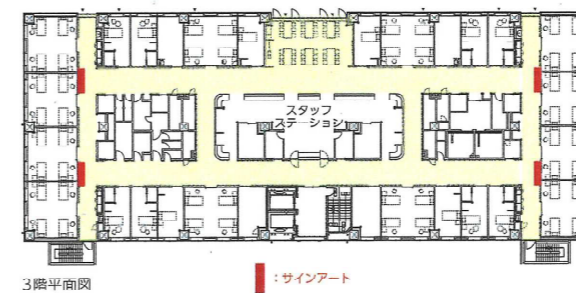
2階の回復期リハビリテーション病棟にはリハビリ室を隣接配置し、まだ全国でも実例の少ない病棟一体型のリハビリテーション環境を実現した。四方オープン型のスタッフステーションを病棟の中心に据え、看護師や理学療法士らが目届きやすく患者が安心してリハビリに臨める環境をつくった。また、病棟廊下には葉草をモチーフとしたサインアートを配し、空間の「分かりやすさ」と療養環境の「親しみやすさ」の両立を目指した。

（古井利和、平田郁子）

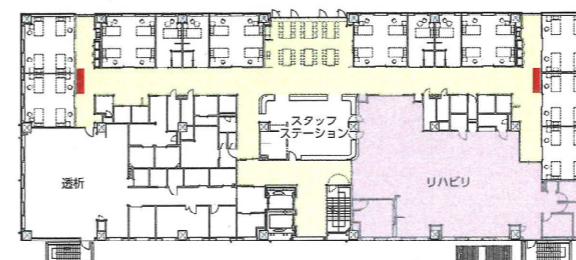
所在地／埼玉県志木市 竣工／2016年1月
設計施工／清水建設 敷地面積／5,795.97㎡
建築面積／1,938.96㎡ 延床面積／6,123.92㎡
構造規模／RC造一部S造 地上4階 病床数／100床
撮影／株式会社 エスエス 東京支店



上／総合待合 左下4点／葉草をモチーフにしたアートサイン 右下／リハビリ室につながる回復期リハビリテーション病棟廊下



3階平面図



2階平面図 縮尺1/800



1床室